

平成24年 2月15日

川崎市議会議長 大島 明 様

宮前区

かわさき生活クラブ生活協同組合

ほか 5,398名

家庭から排出される資源物としての廃食油回収の推進を求める請願

請願の要旨

- 1 家庭から排出される資源物としての廃食油を「燃やさず、流さず」、分別回収することを早急に新たな目標としてください。
- 2 家庭から排出される資源物としての廃食油を有効利用できるように、回収・再生ルートを早急に確立してください。

請願の理由

地球温暖化や天然資源の枯渇が世界的な問題となる中で、低炭素型社会の実現に向け、廃棄物の分別回収による資源化を更に進める必要があるといわれています。川崎市民はこれまで家庭や職場でゴミの排出を減らし、空き缶、空き瓶、ペットボトル、金属物、新聞・雑誌・ダンボールの資源化を行政と協力して進めてきました。平成23年（2011年）3月からは市によるミックスペーパー分別回収が全市において実施され、またプラスチック製容器包装分別収集が南部3区で開始、2013年までには全市での実施が予定されており、更なる分別回収が進むことに期待を抱いています。

しかし、私たちは資源物がゴミとして処理されているという現実も目の当たりにしています。中でも、家庭から排出される廃食油の有効利用は、持続可能な循環型の地域社会を形成する観点から重要な取組の一つです。このことにつ

いて市も十分認識しているにもかかわらず、一部の市域を除いて有効な資源回収が行われていません。

現在、川崎市内約66万7,000世帯の家庭から出る廃食油のほとんどは、ゴミとして焼却されるか、生活排水と一緒に流されているのが現状です。燃やしたり、下水として処理するにはコストがかかる上に、CO₂の発生や河川を汚染するなど、環境に及ぼす影響は深刻です。この現状は憂慮すべきであり、一刻も早く廃食油を「燃やさない、流さない」ための対策を講じる必要があります。

市は学校給食の廃食油をリサイクル石けんに再資源化して学校給食の食器洗いに使用するという、先進的な地域内循環システムの実現をすでに実施しています。家庭から排出される廃食油についても、ぜひ資源として有効利用するシステムを早急に構築してください。現在、市民が自主回収した一部の廃食油はリサイクル石けんに再資源化されています。また昨今、廃食油から製造するバイオディーゼル燃料はエネルギーとしての価値が注目されており、先の東日本大震災においては、地域で軽油の供給が途絶えた中、バイオディーゼル燃料が支援物資の輸送燃料として活躍したことが報道されました。市とNPO法人による環境技術産学公民連携公募型共同研究事業では廃食油の回収、バイオディーゼル燃料の製造、実走行実験が行われ、その過程のライフサイクルアセスメント的評価では、バイオディーゼル燃料のCO₂の削減効果や軽油代替燃料としての有効性が実証されています。

2年前に高津区との協働事業として始まった廃食油の市民回収は、現在、麻生区、多摩区、宮前区、高津区の4区に拡大しています。家庭からの廃食油の分別回収とその再資源化に向けての市民の意識は高まっており、本格的な回収に乗り出すための機は熟しているといえます。この市民の意識の高まりを生かし、家庭から排出される廃食油の分別回収をミックスペーパー、プラスチック製容器包装に続く新たな目標として早急に設定してください。市民やNPO法人とともに進めてきた回収モデルの成果も踏まえて、市は家庭から排出される廃食油について回収から利用に至るまでの再生ルートの確立に向けて、早急に対策を講じてください。

紹介議員

| | | | |
|---|---|---|----|
| 浅 | 野 | 文 | 直 |
| 沼 | 沢 | 和 | 明 |
| 粕 | 谷 | 葉 | 子 |
| 竹 | 間 | 幸 | 一 |
| 松 | 川 | 正 | 二郎 |
| 猪 | 股 | 美 | 恵 |